

令和 8 年 6 月 1 2 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

6 7		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
熊本大学教育学部附属小学校	国立大学法人熊本大学	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
熊本大学教育学部 附属小学校	https://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/kokusai/news/topics_detail.php?id=69e5bf5b1276c05f020c8da2

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
熊本大学教育学部 附属小学校	https://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/kokusai/news/topics_detail.php?id=6a13a7873370365116076ff2	

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている

・ 一部、計画通り実施できていない

・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

実施学級においては、日本人教員とネイティブ教員が二人体制で、児童の実態に応じて、指導内容や安全面を優先にしながら徐々に英語での指示や説明に慣れていくように配慮しながら実施した。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している

・ 実施していない

<特記事項>

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、熊本県のさらなる国際化に対応すべく、令和8年度からイマージョン教育を実施する国際クラスの開設に向けて、その試行段階として、令和7年度の第1学年(うちークラス)の音楽・体育において、英語による教育を実施するものである。

学校としても初めての取組であり、また、英語そのものを学ぶ時間を特設設けていなかったため、最初は戸惑いや英語を理解できない児童の姿も多く見られた。しかし、状況に応じて繰り返し一貫性のある英語の使用を心掛けたため、徐々に英語の指示や表現にも慣れていく姿が見られ、児童の適応能力の高さを感じた。一方、安全面への優先などから、十分な英語使用の環境が創出できなかったところもあった。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例においては、通常の教育課程の内容の一部を英語による教育を実施するものである。内容自体が大きく変わるものではないが、使用言語が異なるため指導方法により一層の工夫が必要である。身に付けるべき資質・能力の育成を第一に捉え、実態に応じて創意工夫をしながら、いかに英語による学びを充実させることができるか、また、英語力の向上を図ることができるかなどを長期的なスパンで検証していく必要がある。

4. 課題の改善のための取組の方向性

令和8年度からは、英語による授業を行う国際クラスを全学年において一斉に開設する予定である。英語での学習経験の積み重ねがない児童が圧倒的多数であることを踏まえ、安定した授業運営ができるようになるまでには相当の時間や児童・教員・保護者等の多くの労力や協力体制が必要であると考ええる。

英語そのものを学ぶ時間を設定し、長期的なスパンで英語力の向上を図るとともに、様々な教科等の英語での授業の充実を図るため、令和7年度の実践を参考にしながら、定期的な研修や情報共有の場を設け、国際クラスでの安定した実践の継続、取組の充実を図っていく予定である。